



〈糸魚川市〉

糸魚川駅前中心部を襲った 糸魚川大火を訪ねて

2016年、平成28年12月22日(木)午前10時過ぎに発生した糸魚川市の大火は約30時間燃え続け、約44棟を焼いた。範囲は4万平方メートル。住宅の中心部や飲食店、住居の中心部は、我々あんしん取材班は12月30日(金)糸魚川市に向かった。糸魚川市は、糸魚川市と新潟県に面した市である。日本海に位置する。世界的にも珍らしいヒスイの産地であり、全域が糸魚川ユネスコ世界ジオパークである。2005年に旧糸魚川市と能生町、青海町が合併した。市内で良質な石灰岩が産出されることから、セメント青海工場、明星セメント糸魚川工場

を有するセメント製造を始めとした鉱工業が盛んである。3月14日、2015年3月14日に北陸新幹線糸魚川駅が開業し、東京から2時間で来れることもあり、平成27年には248万人の観光客を迎えた。マリンドライブムネ生“アパルク”に30万人、”ファミサマ”に10万人が訪れた。対前年比12.6%増である。糸魚川市に絶大な経済効果を生んだ。糸魚川駅の新幹線改札口に行くたびに、幹線はくたか度新から約1200人家族が迎えにきた。

と再会を喜んで、駅に隣接するヒスイ王国館の駐車場に車を停めて、駅北口から火元ラーメン店へ向かう。火元周辺には崩壊を防ぐためのビテ足場が組まれた。日本海側は長屋となっており、裏に回ってみると、道路は狭く、焼け落ちて状況はつかめない。飲食店が軒並みに並んでいて、密集地だったのが伺える。台風集地に消防車も入ることができない道。は、初期消火も難しく、始まったのが現場を早かたの粉が舞い、飛

び火をして、予期せぬ火災が発生し、多くの被災者が出た。しかし、鉄筋コンクリート造りの「第四リート」は無傷に近い状態。北越銀行も、外壁はスケタもの、内部の被害は少ない。営業を再開。第四銀行の東側には、加賀の井酒造があり、全焼し蔵加壁を残して無惨な姿に。更に日本海側へ進むと、200年の歴史のある「日本料理鶴来家(うるぎや)」は跡形もない姿に。ポランティアの方々が鶴来家さんの指示で想い出の品を掘り出していた。鶴来家さんの南側に軒だけ燃えなかつた家が話題になった。家主は金沢隆夫さん(35)で2008年に市内業者依頼し建築。外壁はステンレス鉄板。正面は網目入り窓ガラスで、多少ヒビが入っただけ。奇跡だ。

(※→金沢さんは消防団員として消火活動中に撮影された。)

火災現場の所々にボランティアの人たちが被災者の依頼を受け出し、品を掘り起こしている。ポランティアセンターの窓口がある糸魚川市民会館に向かった。糸魚川市役所の隣にあり、入口脇には元氣よく「おつかれまです!おしるこ」とん汁いかがですか!と、長岡市出身者らでつくる災害支援チーム「フエニツクス」が吹き出し、バス4人が吹き出しを行なっていた。又、糸魚川青年会議所メンバーも救援物資の受け入れで活動している。センターの中にはボランティアの受付や被災者向けの衣類や食料品が並べられていて、被災者の方々は親せきのホテルに身を寄せたり、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興をお祈りします。

(※→12月30日現在)



▶糸魚川駅 新幹線口 ▶中央が火元のラーメン店 ▶火元東側の密集地 ▶北越銀行糸魚川支店 ▶鶴来家さん敷地 ▶奇跡の家・金沢宅 ▶ポランティアセンター入口

